

「最近の南海トラフ周辺の地殻活動」について

平成30年7月6日に気象庁において第9回南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会、第387回地震防災対策強化地域判定会(定例)を開催し、気象庁は「最近の南海トラフ周辺の地殻活動」として次の内容の南海トラフ地震に関連する情報(定例)を発表した。これに関連する資料をp22～p43に掲載する。

現在のところ、南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時と比べて相対的に高まったと考えられる特段の変化は観測されていません。

1. 地震の観測状況

プレート境界付近を震源とする主な深部低周波地震(微動)を以下の領域で観測しました。

- (1) 長野県南部：6月19日から30日
- (2) 愛知県：6月27日から28日
- (3) 奈良県から和歌山県：6月22日から25日
- (4) 愛媛県東予から瀬戸内海中部：6月13日から19日
- (5) 徳島県北部から愛媛県東予：6月20日から26日

2. 地殻変動の観測状況

上記(1)、(2)、(3)の深部低周波地震(微動)とほぼ同期して、周辺に設置されている複数のひずみ計でわずかな地殻変動を観測しました。

また、GNSS-音響測距観測によると、紀伊水道沖で通常とは異なる変化を2017年末頃から観測しています。

一方、GNSS観測等によると、御前崎、潮岬及び室戸岬のそれぞれの周辺では長期的な沈降傾向が継続しています。

3. 地殻活動の評価

上記(1)、(2)、(3)の深部低周波地震(微動)及びひずみ観測点で観測した地殻変動は、想定震源域のプレート境界深部において発生した「短期的ゆっくりすべり」に起因すると推定しています。

GNSS-音響測距観測で観測されている紀伊水道沖の通常とは異なる変化は、紀伊水道沖における非定常地殻変動によるものである可能性があります。

上記観測結果を総合的に判断すると、南海トラフ地震の想定震源域ではプレート境界の固着状況に特段の変化を示すようなデータは今のところ得られておらず、南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時と比べて相対的に高まったと考えられる特段の変化は観測されていないと考えられます。

気象庁では、大規模地震の切迫性が高いと指摘されている南海トラフ周辺の地震活動や地殻変動等の状況を定期的に評価するため、南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会、地震防災対策強化地域判定会を毎月開催して委員の意見提供等を受け、現在の状況を「最近の南海トラフ周辺の地殻活動」として取りまとめ南海トラフ地震に関連する情報(定例)を発表している。

【「最近の南海トラフ周辺の地殻活動」についての頁で使われる用語】

・「想定震源域」

南海トラフ沿いの大規模地震発生時に、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界が破壊されると想定される領域。「想定震源域」全体もしくは一部が破壊されると考えられている。

・「クラスタ」、「クラスタ除去」

地震は時間空間的に群(クラスタ: cluster)をなして起きることが多くある。「本震とその後に起きる余震」、「群発地震」などが典型的なクラスタで、余震活動等の影響を取り除いて地震活動全体の推移を見ることを「クラスタ除去」と言う。例えば、相互の震央間の距離が3km以内で、相互の発生時間差が7日以内の地震群をクラスタとして扱い、その中の最大の地震をクラスタに含まれる地震の代表とし、地震が1つ発生したと扱う。

・「長期的ゆっくりすべり(長期的スロースリップ)」

想定震源域の深部で、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界が数ヶ月～数年間かけてゆっくりとすべる現象で、数年～十年程度の間隔で繰り返し発生していると考えられている。例えば、東海地域では、前々回は2000年秋頃～2005年夏頃にかけて発生し、前回は2013年はじめ頃から2017年はじめ頃にかけて発生した。

・「深部低周波地震(微動)」

深さ約30km～40kmで発生する、通常の地震より長周期の波が卓越する地震を「深部低周波地震」と言う。長野県南部～日向灘にかけては帯状につながる深部低周波地震の震央分布が見られる。深部低周波微動は、P波やS波が明瞭ではなく震動が継続するもので、現象的には深部低周波地震と同じであるが、解析手法に違いがあるため、深部低周波地震が観測されない場合にも観測されることがある。

・「短期的ゆっくりすべり(短期的スロースリップ)」

「短期的ゆっくりすべり」は、長期的ゆっくりすべりが発生する領域のさらに深部の、深部低周波地震(微動)の発生領域とほぼ同じ領域でのフィリピン海プレートと陸のプレートの境界のすべりと考えられている。数日～1週間程度継続する「短期的ゆっくりすべり(短期的スロースリップ)」が観測されるときは、ほぼ同時に深部低周波地震(微動)活動が観測されることが多い。短期的ゆっくりすべりは、数ヶ月から1年程度の間隔で繰り返し発生している。

注) 地震活動および地殻活動の解析にはHirose et al. (2008)、Baba et al. (2002)によるフィリピン海プレートと陸のプレートの境界データを使用している。

平成30年6月1日～平成30年7月6日09時の主な地震活動

○南海トラフ巨大地震の想定震源域およびその周辺の地震活動：

【最大震度3以上を観測した地震もしくはM3.5以上の地震及びその他の主な地震】

月/日	時:分	震央地名	深さ (km)	M	最大 震度	発生場所
6/6	01:21	日向灘	28	3.9	2	フィリピン海プレート内部
6/14	22:51	愛知県東部	24	3.7	3	地殻内
6/16	18:13	紀伊水道	43	3.8	2	フィリピン海プレート内部
6/18	07:58	大阪府北部	13	6.1	6弱	地殻内
6/24	10:48	遠州灘	19	3.5	-	フィリピン海プレートと陸のプレートの境界と 考えられる
6/26	22:36	静岡県西部	28	3.5	1	フィリピン海プレート内部
7/3	20:38	日向灘	37	4.1	3	フィリピン海プレート内部

○深部低周波地震（微動）活動期間

四国	紀伊半島	東海
<p>■香川県東部、香川県西部 6月26日</p> <p>■徳島県北部 (特段の活動はなかった)</p> <p>■香川県西部、徳島県北部、愛媛県東予 6月1日～4日、6月6日～10日 6月20日～26日</p> <p>■愛媛県東予、瀬戸内海中部 6月13日～19日、6月23日</p> <p>■愛媛県中予、愛媛県南予 6月15日</p> <p>■愛媛県南予、伊予灘 6月1日～3日、6月5日～8日 6月12日～13日、6月16日～17日 6月20日、6月25日～26日 7月3日</p> <p>■愛媛県南予、豊後水道 6月3日～5日、6月7日～9日</p>	<p>■伊勢湾、三重県北部、三重県中部 6月17日～18日</p> <p>■三重県中部、三重県南部、奈良県 6月25日</p> <p>■奈良県 ■和歌山県北部、和歌山県南部、紀伊水道 6月18日 <u>6月22日～25日</u></p> <p>■和歌山県北部、和歌山県南部、紀伊水道 6月4日～6日 6月8日～9日 6月11日 6月13日～15日</p>	<p>■長野県南部 <u>6月19日～30日</u></p> <p>■愛知県東部、愛知県西部 6月9日～10日 6月15日～19日 6月22日～25日 <u>6月27日～28日</u> 7月3日～4日</p>

※深部低周波地震（微動）活動は、気象庁一元化震源を用い、地域ごとの一連の活動（継続日数2日以上または活動日数1日の場合で複数個検知したもの）について、活動した場所ごとに記載している。

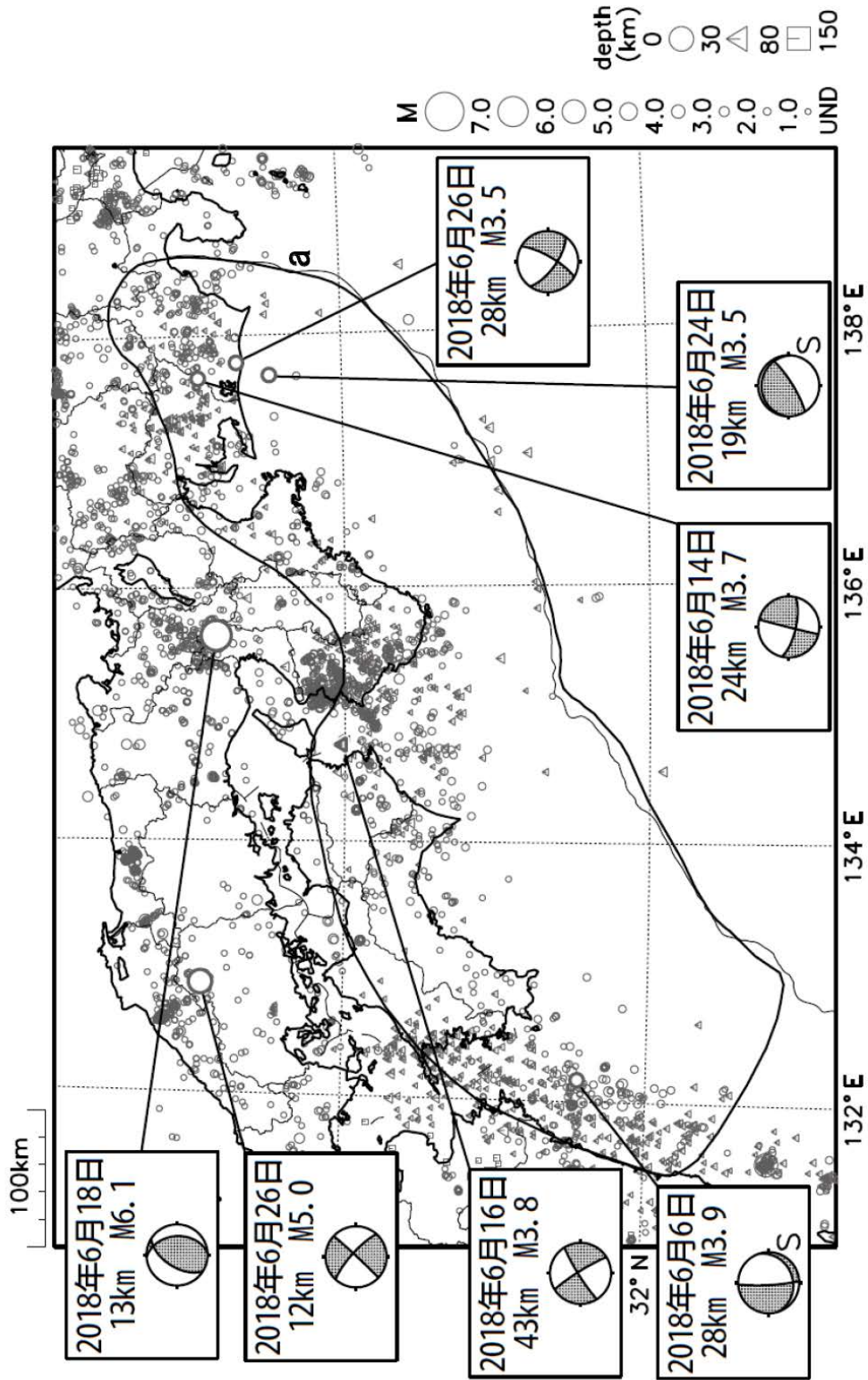
※深部低周波地震（微動）活動は、次々頁の震央分布図に示している。

※ひずみ変化と同期して観測された深部低周波地震（微動）活動を赤字で示す。

※7月5日以降の震源要素は、今後の精査で変更する場合がある。

気象庁作成

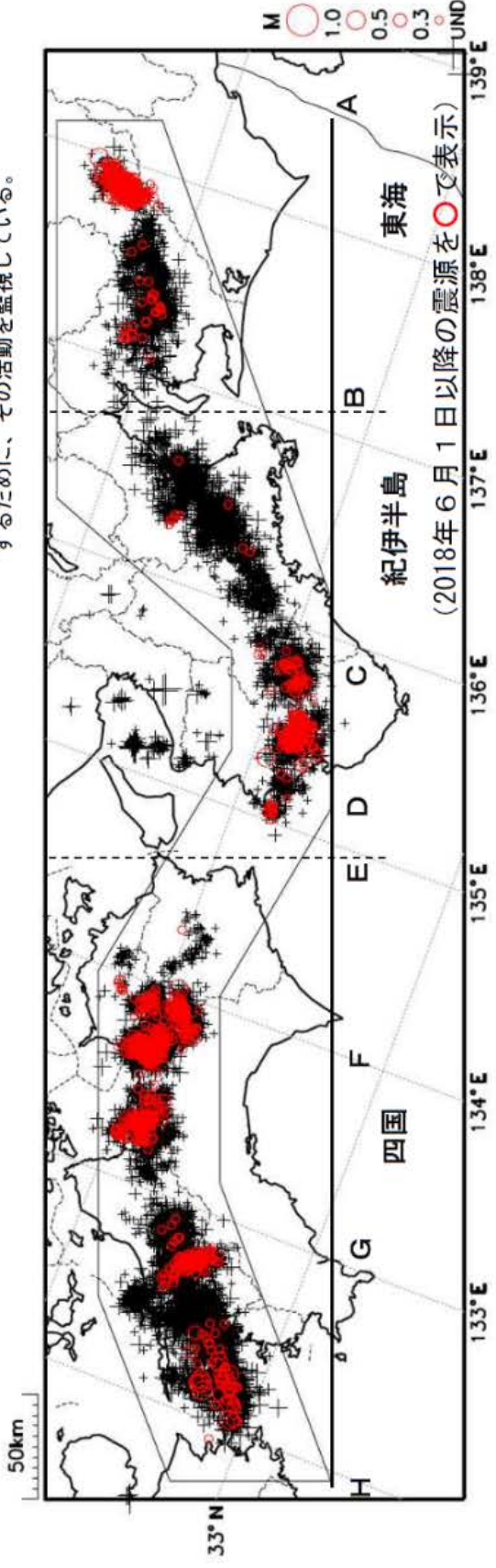
南海トラフ沿いとその周辺の広域地震活動(2018年6月1日～2018年6月30日)



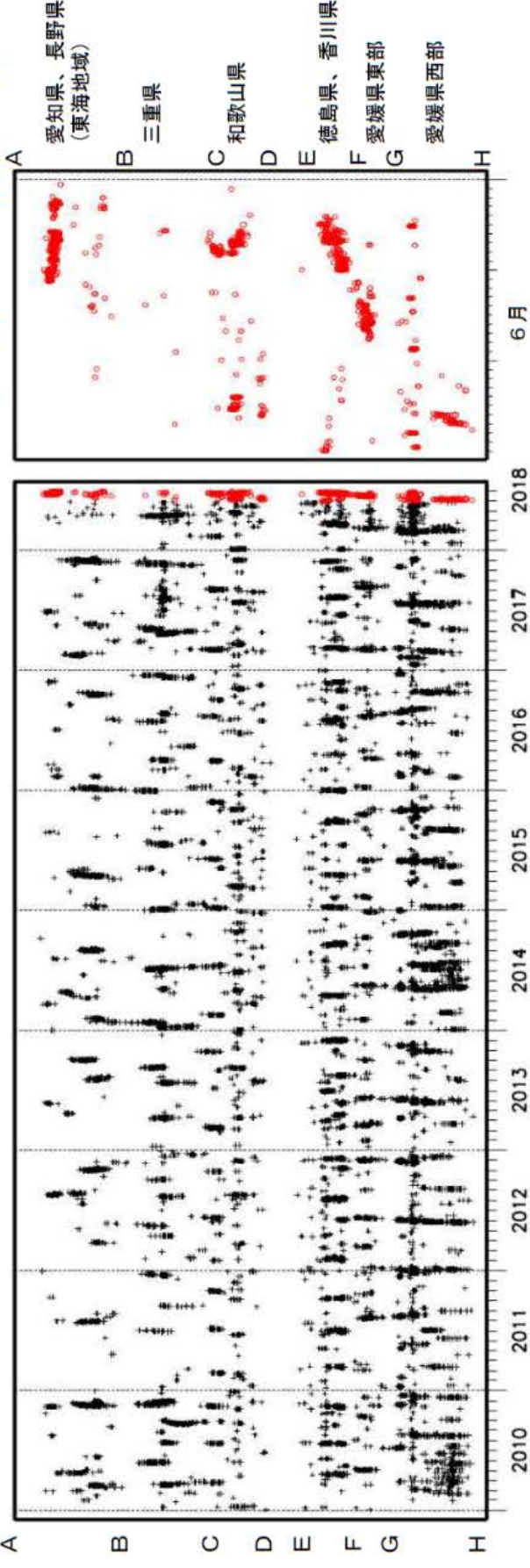
・図中の吹き出しは、南海トラフ巨大地震の想定震源域(領域a内)で最大震度8以上を観測した地震もしくはM3.5以上の地震、それ以外(領域a内以外)の陸域M5.0以上・海域M6.0以上とそれ以外の主な地震。
 ・震源の深さは、精度がやや劣るものは表記していない。
 ・発震機構解の横に「S」の表記があるものは、精度がやや劣るものである。

気象庁作成

深部低周波地震(微動)活動(2010年1月1日~2018年6月30日) 深部低周波地震(微動)は、「短期的ゆっくりすべり」に密接に関連する現象とみられており、プレート境界の状態の変化を監視するために、その活動を監視している。



上図領域内の時間分布図(A-H投影) (2018年6月1日以降の震源を○で表示)



※2018年3月22日から、深部低周波地震(微動)の処理方法の変更(Matched Filter法の導入)により、それ以前と比較して検知能力が変わっている可能性がある。

気象庁作成

長野県から愛知県にかけての深部低周波地震(微動)活動

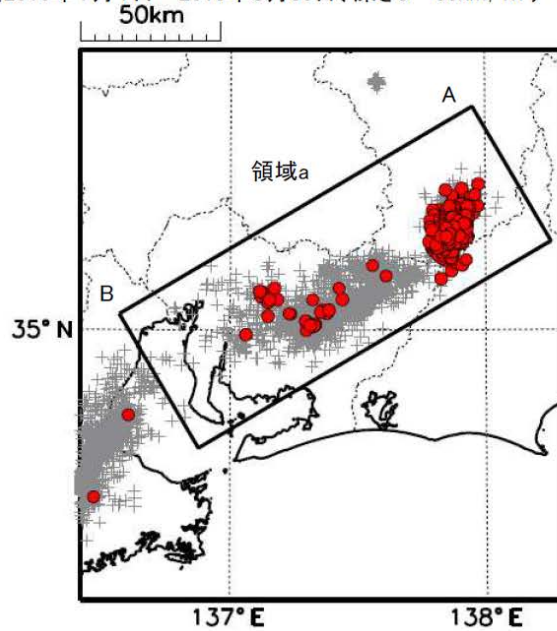
6月19日から30日にかけて長野県南部で深部低周波地震(微動)を観測した。25日以降、一時活動が低調となっていたが、27日午後から30日まで再度まとまった活動が見られた。深部低周波(微動)活動とほぼ同期して、長野県、静岡県、愛知県に設置されている複数のひずみ計でわずかな地殻変動を観測した。これらは、短期的ゆっくりすべりに起因すると推定される。

6月27日から28日にかけて、愛知県で深部低周波地震(微動)を観測した。深部低周波(微動)活動とほぼ同期して、長野県、静岡県、愛知県に設置されている複数のひずみ計でわずかな地殻変動を観測した。これらは、短期的ゆっくりすべりに起因すると推定される。

深部低周波地震(微動)活動

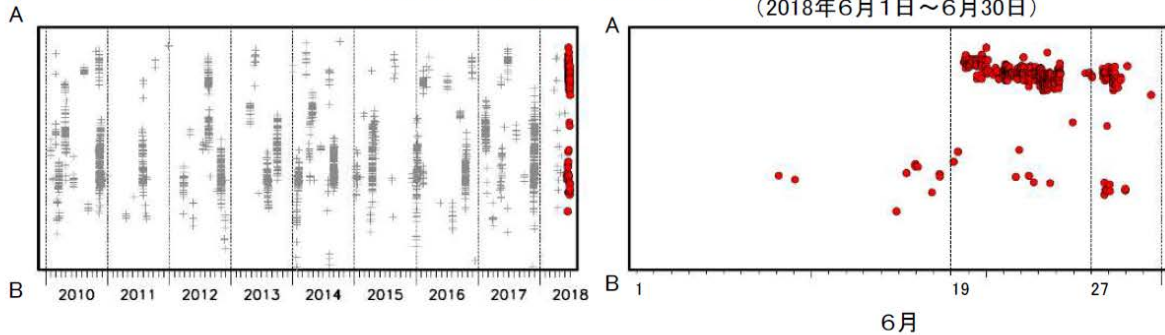
震央分布図

(2010年1月1日～2018年6月30日、深さ0～60km、Mすべて)



震央分布図の領域a内のAB方向の時空間分布図

(2018年6月1日～6月30日)

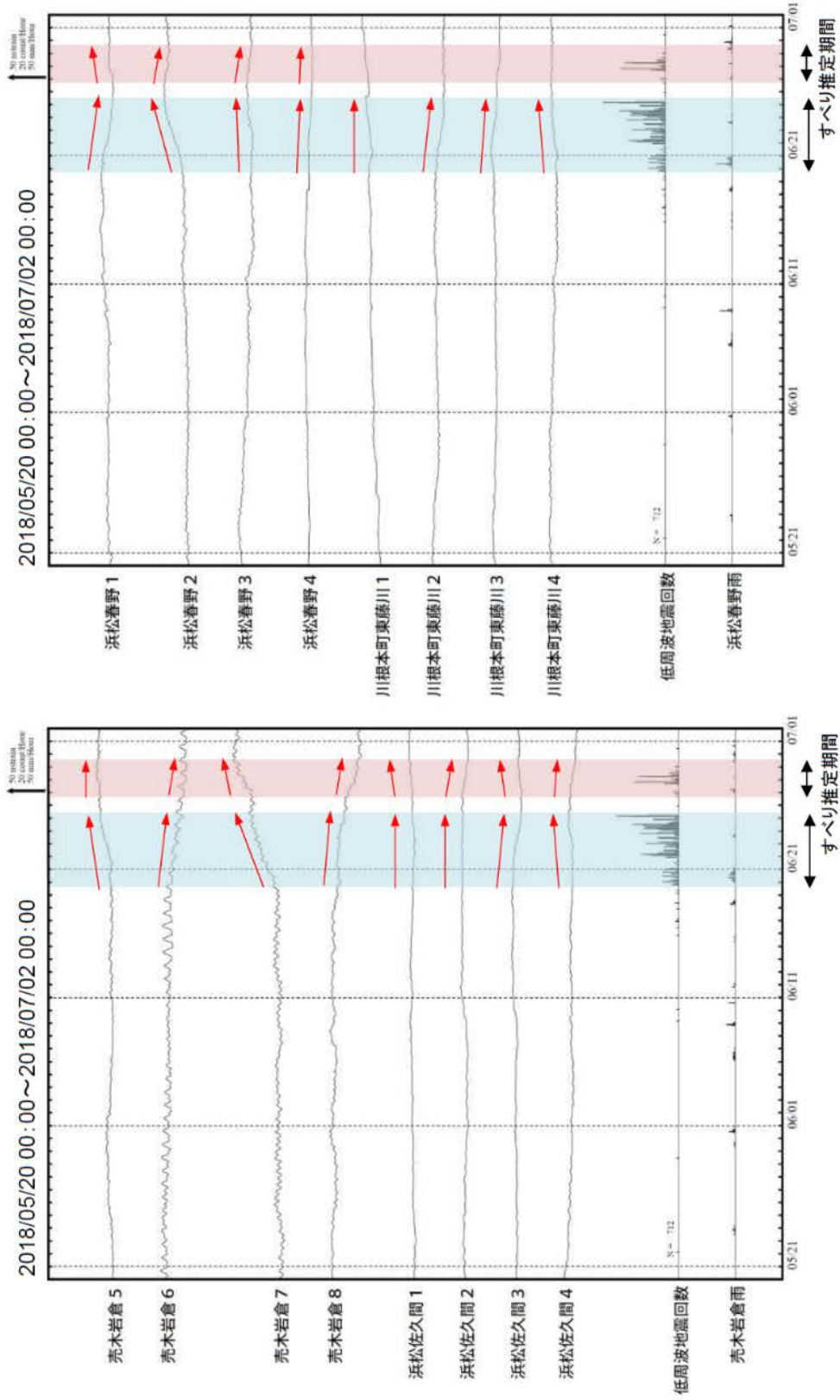


※2018年3月22日から、深部低周波地震(微動)の処理方法の変更(Matched Filter法の導入)により、それ以前と比較して検知能力が変わっている可能性がある。

気象庁作成

長野県から愛知県にかけて発生した短期的ゆっくりすべり

長野県から愛知県にかけて観測されたひびきみ変化

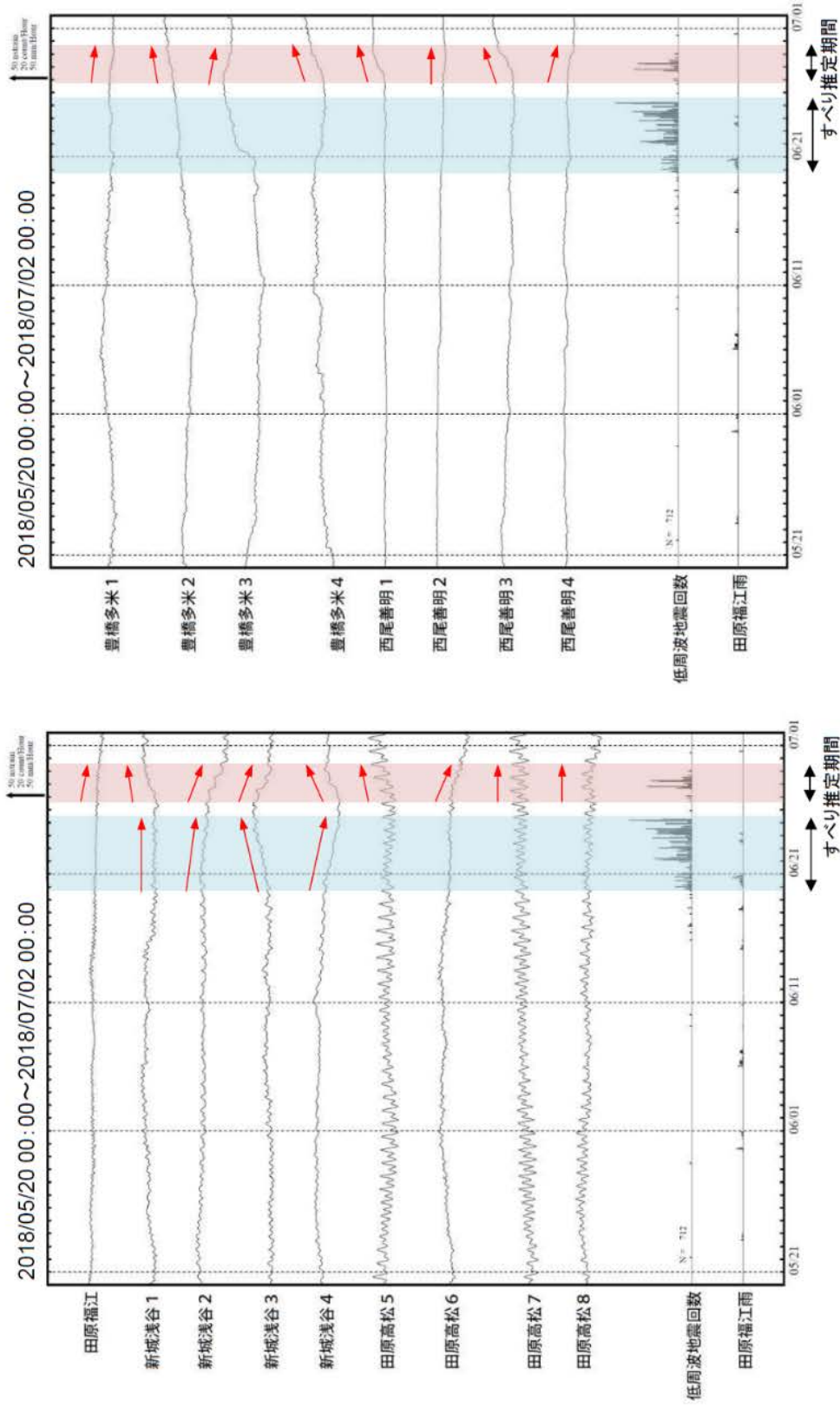


浜松春野、川根本町東藤川は静岡県内の観測点である。

気象庁作成

長野県から愛知県にかけて発生した短期的ゆっくりすべり

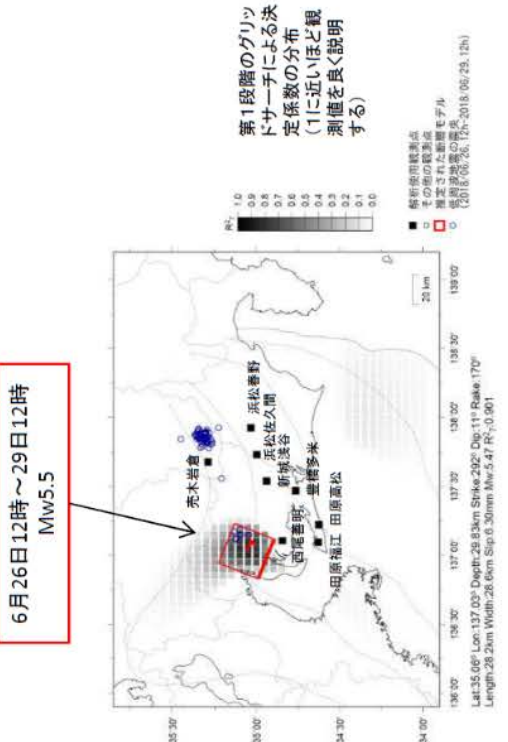
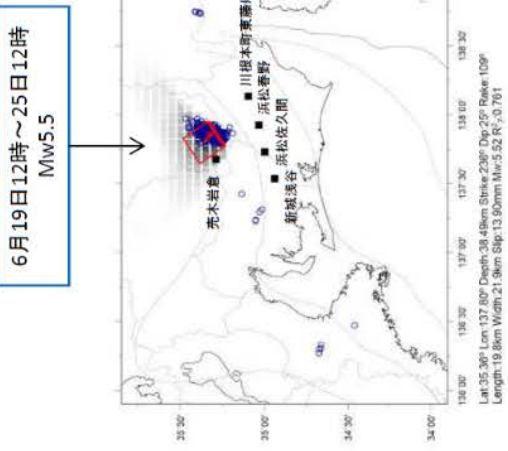
長野県から愛知県にかけて観測されたひずみ変化



豊橋多米及び西尾善明は産業技術総合研究所のひずみ計である。

長野県から愛知県にかけて発生した短期的ゆっくりすべり

ひずみ変化から推定される断層モデル



前頁に観測されたひずみ変化のうち、赤矢印を付した観測点での変化量を元にすべり推定を行ったところ、低周波地震とほぼ同じ場所にすべり域が求まった。これらの領域で短期的ゆっくりすべりを観測したのは、19日～25日の活動は2017年6月26日～29日の活動(Mw5.6)以来約1年ぶり、26日～29日の活動は2017年11月26日～28日の活動(Mw5.7)以来約7ヶ月ぶりである。

断層モデルの推定は、産総研の解析方法(坂場ほか、2012)を参考以下に以下の2段階で行う。
 ・断層サイズを20km × 20kmに固定し、位置を0.05度単位でグリッドサーチにより推定する。
 ・その位置を中心にして、他の断層パラメータの最適解を求める。

気象庁作成

伊勢湾から紀伊半島の深部低周波地震(微動)活動と 短期的ゆっくりすべり

6月22日から25日に、奈良県から和歌山県にかけて、深部低周波地震(微動)を観測した。
 深部低周波地震(微動)活動とほぼ同期して、三重県と和歌山県に設置されている複数のひずみ計でわずかな
 地殻変動を観測した。
 これらは、プレート境界深部において発生した短期的ゆっくりすべりに起因すると推定される。

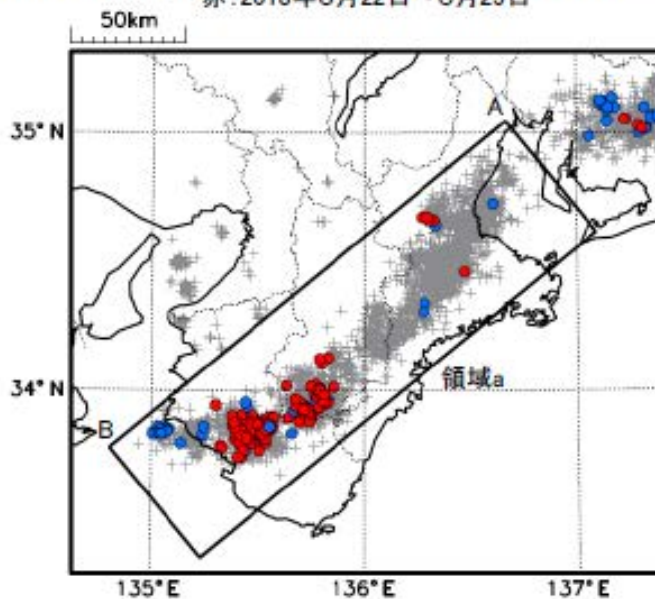
深部低周波地震(微動)活動

震央分布図

(2010年1月1日～2018年6月30日、深さ0～60km、Mすべて)

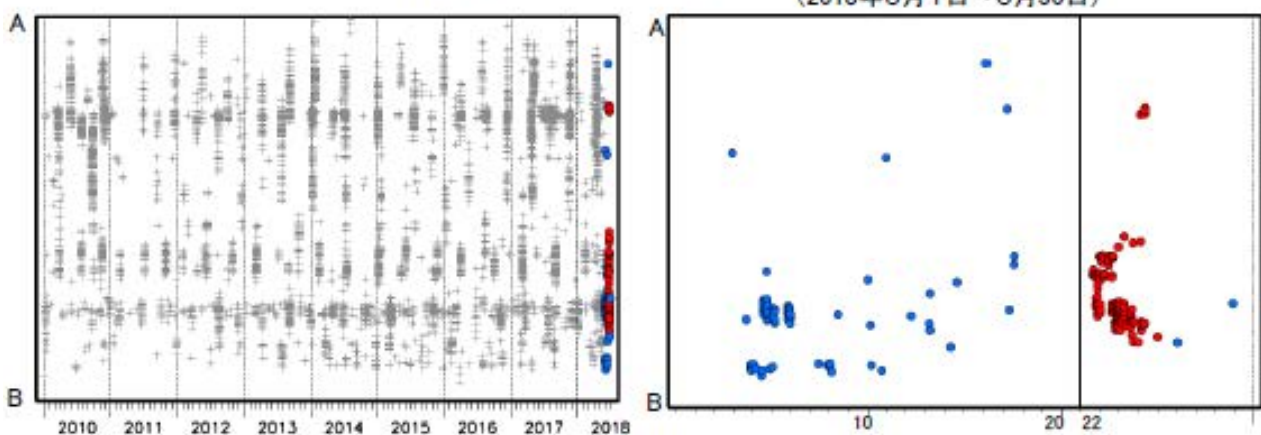
灰: 2010年1月1日～2018年5月31日、青: 2018年6月1日～6月21日、6月26日～30日

赤: 2018年6月22日～6月25日



震央分布図の領域a内の時空間分布図(A-B投影)

(2018年6月1日～6月30日)



※2018年3月22日から、深部低周波地震(微動)の処理方法の変更(Matched Filter法の導入)により、それ以前と比較して検知能力が変わっている可能性がある。

気象庁作成

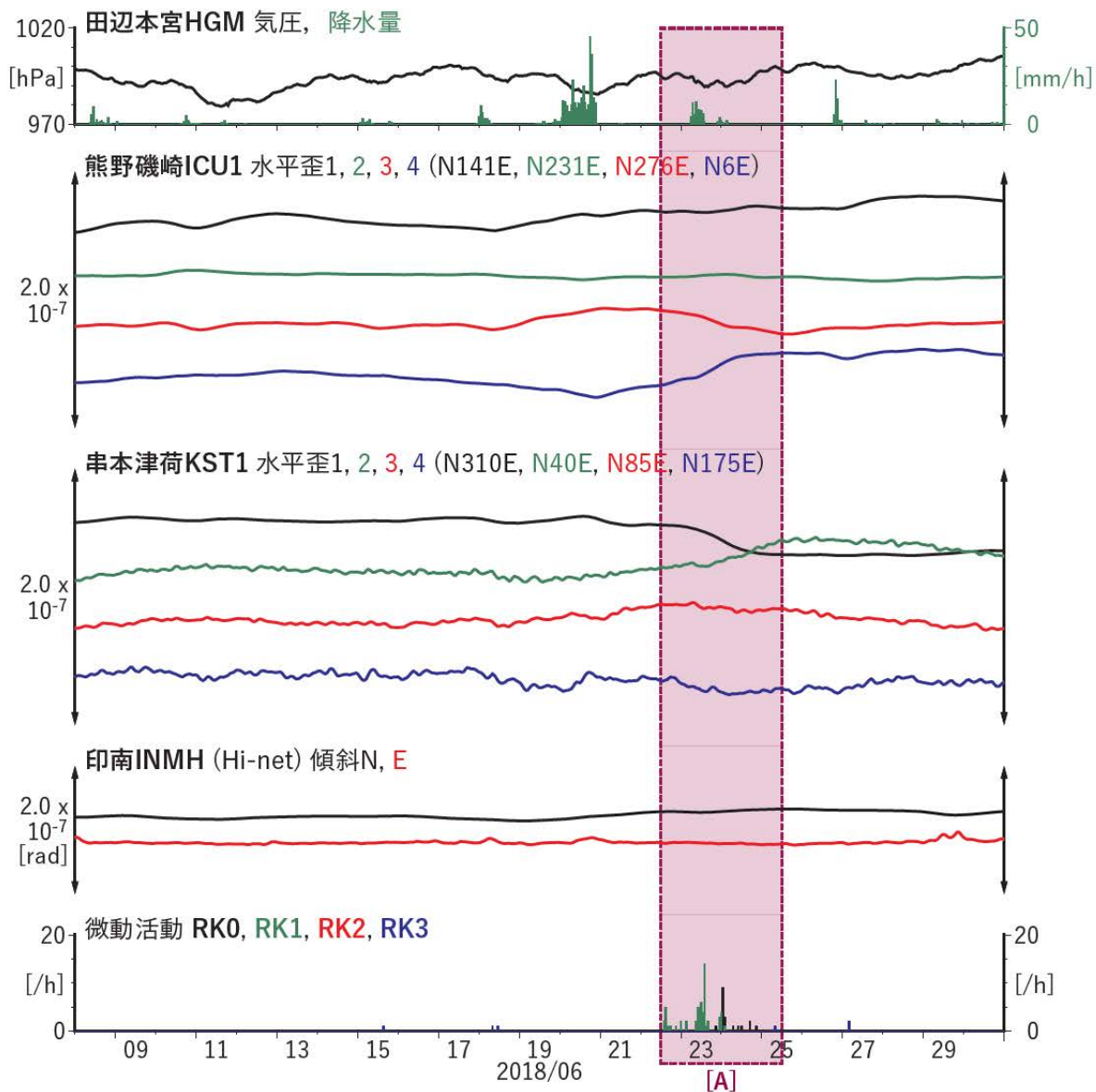
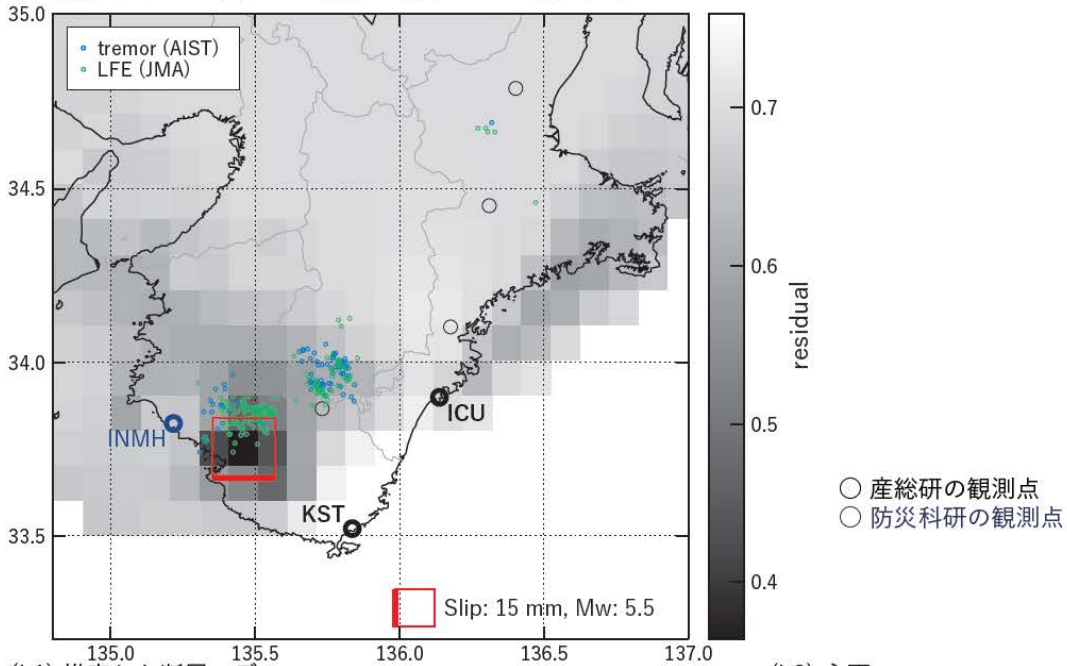


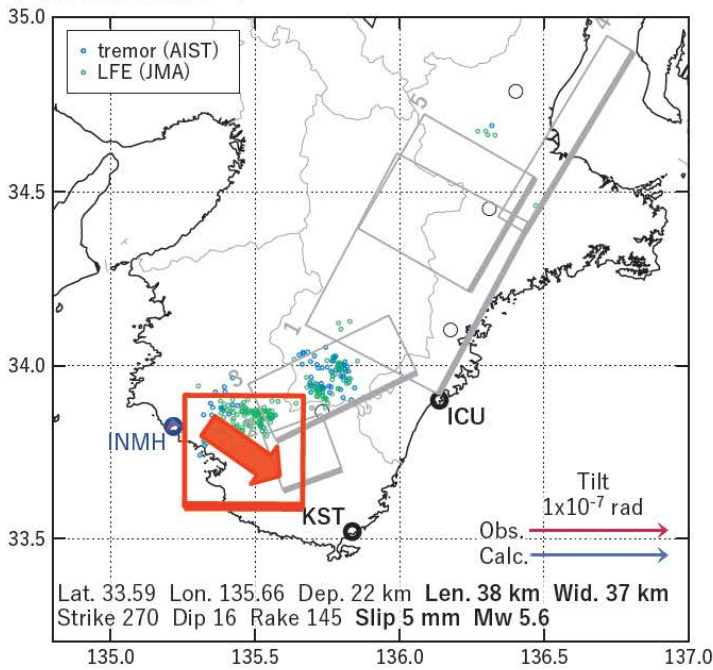
図7 歪・傾斜の時間変化 (2018/06/08 00:00 - 2018/07/01 00:00 (JST))

[A] 2018/06/22PM-25AM

(a) 断層の大きさを固定した場合の断層モデルと残差分布



(b1) 推定した断層モデル



(b2) 主歪

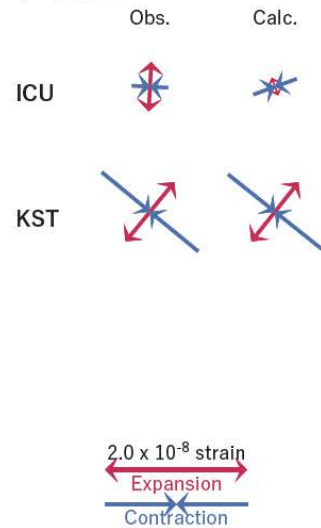


図8 2018/06/22PM-25AMの歪・傾斜変化(図7[A])を説明する断層モデル。

- (a) プレート境界面に沿って 20 x 20 km の矩形断層面を移動させ、各位置で残差の総和を最小にするすべり量を選んだときの残差の総和の分布。赤色矩形が残差の総和が最小となる断層面の位置。
- (b1) (a) の位置付近をグリッドサーチして推定した断層面(赤色矩形)と断層パラメータ。灰色矩形は最近周辺で発生したイベントの推定断層面。
 1: 2017/11/15-17 (Mw5.8), 2: 2018/01/04-05 (Mw5.3), 3: 2018/02/11PM-14AM (Mw5.6), 4: 2018/04/13PM-17 (Mw5.9),
 5: 2018/04/18-20 (Mw5.9)
- (b2) 主歪の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。

徳島県から豊後水道の深部低周波地震(微動)活動

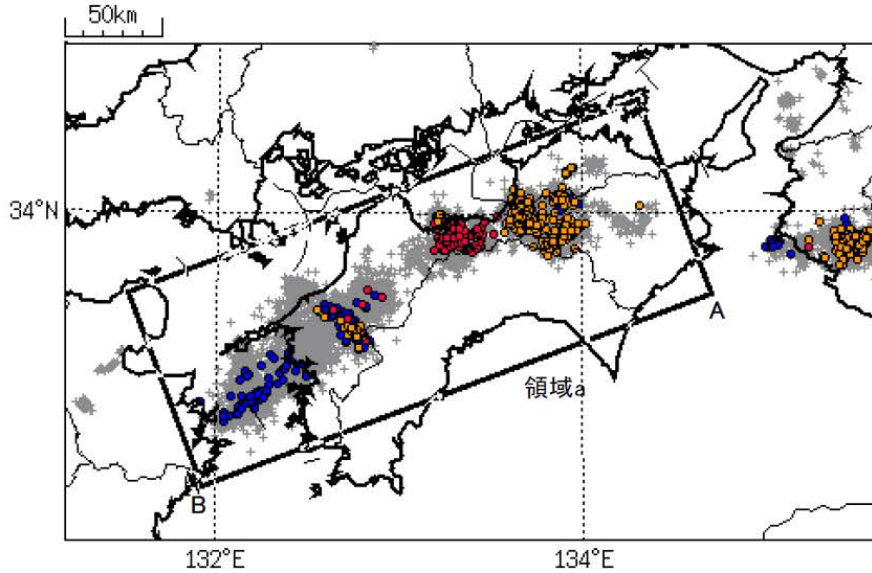
6月3日から5日にかけて、豊後水道で深部低周波地震(微動)を観測した。

6月13日から26日にかけて、愛媛県東予から徳島県北部、香川県西部にかけて深部低周波地震(微動)を観測した。13日から19日は愛媛県東予から瀬戸内海中部にかけて活動が見られていた。次第に東へ移動し、20日以降は徳島県北部から愛媛県東予(愛媛・徳島・香川県境付近)にかけて活動が見られた。

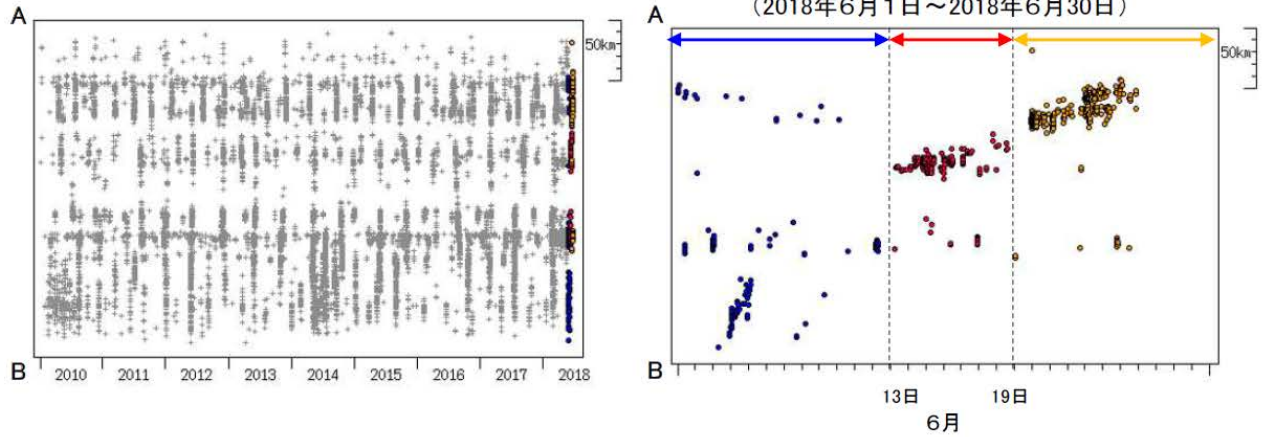
震央分布図

(2010年1月1日～2018年6月30日、深さ0～60km、Mすべて)

青:2018年6月1日～6月12日 赤:6月13日～6月19日 黄:6月20日～6月30日

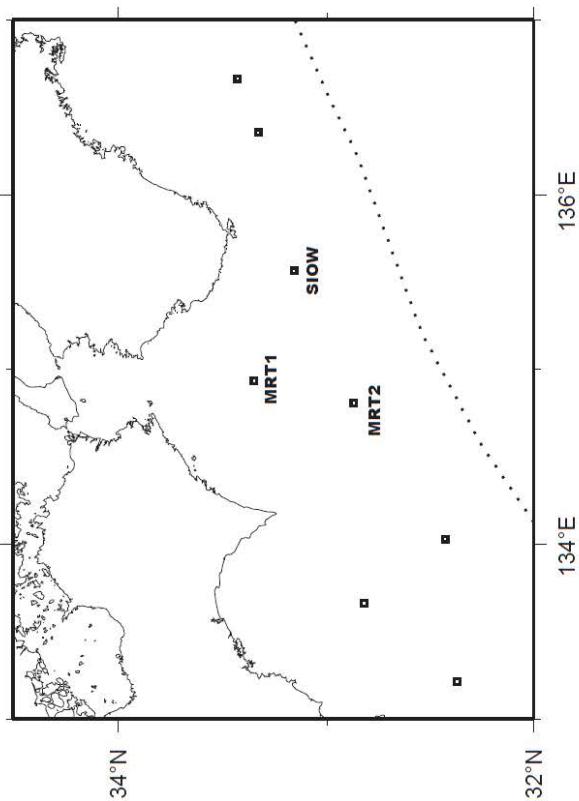
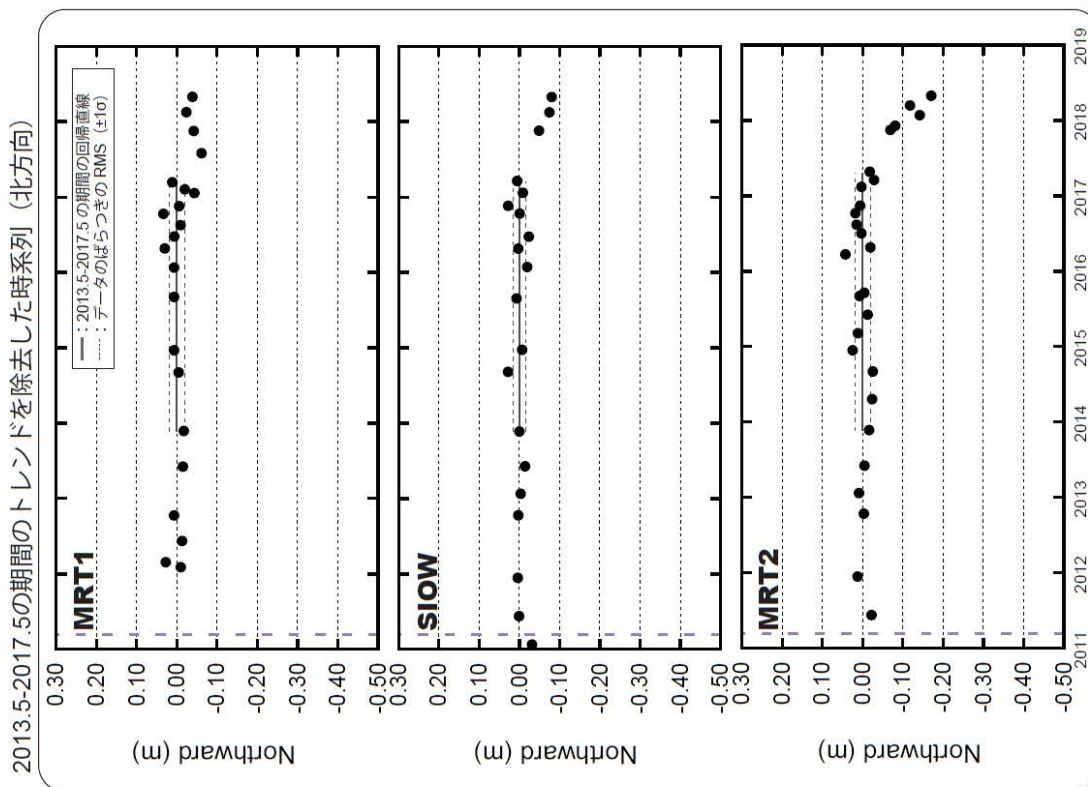


震央分布図の領域a内の時空間分布図(A-B投影)



※2018年3月22日から、深部低周波地震(微動)の処理方法の変更(Matched Filter法の導入)により、それ以前と比較して検知能力が変わっている可能性がある。

<参考> 紀伊水道沖における非定常変動の可能性 (暫定)

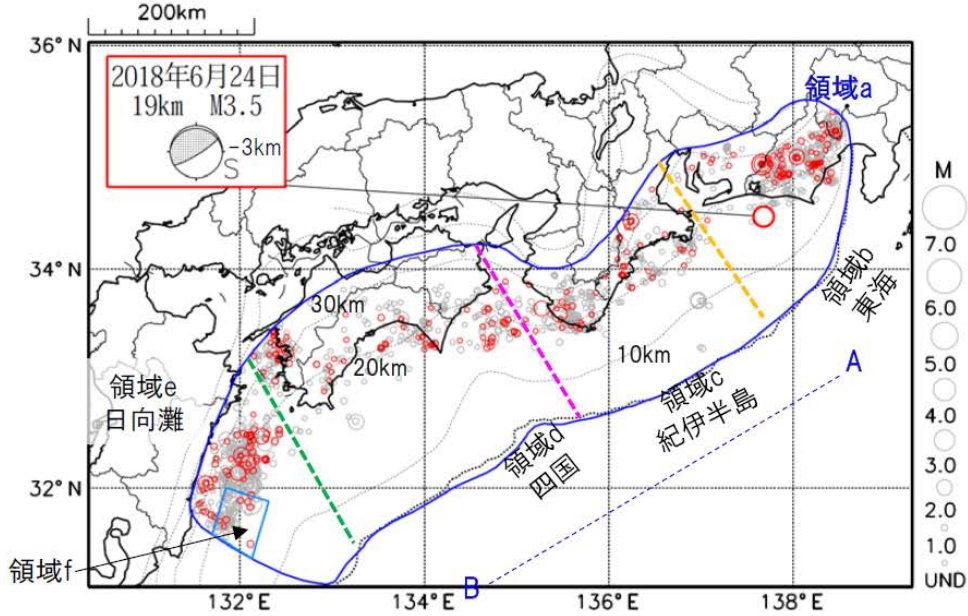


プレート境界とその周辺の地震活動

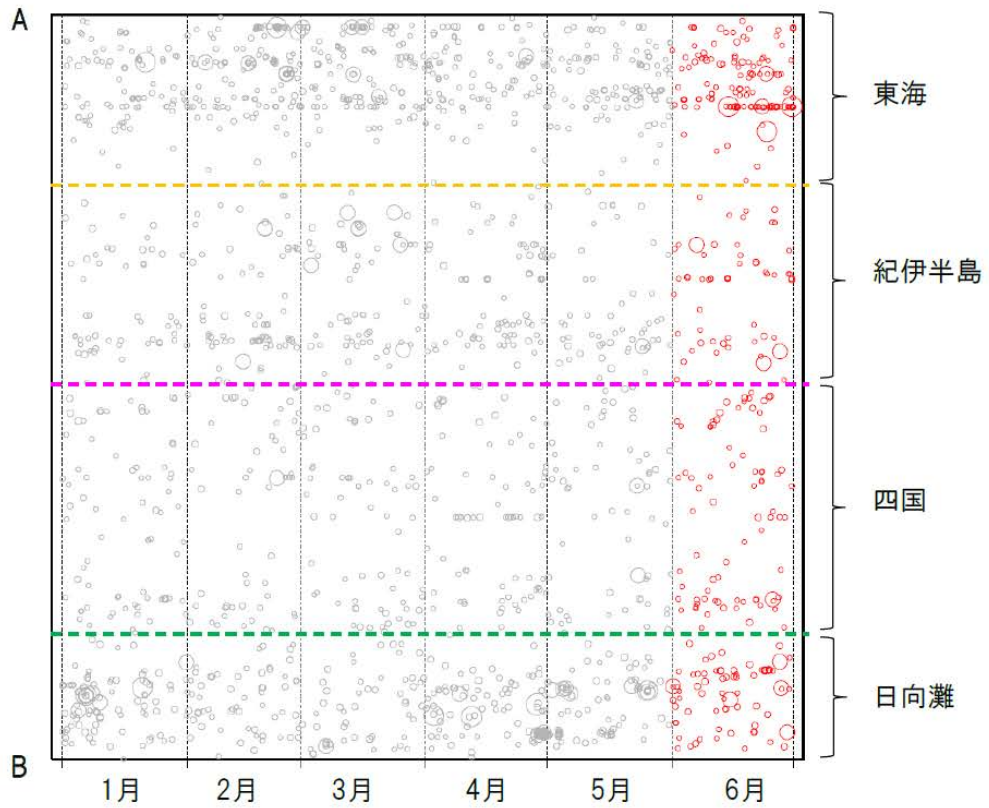
フィリピン海プレート上面の深さから±6km未満の地震を表示している。
日向灘の領域f内のみ、深さ20km～30kmの地震を追加している。

震央分布図

(2018年1月1日～2018年6月30日、M全て、2018年6月の地震を赤く表示)



領域a(南海トラフ巨大地震の想定震源域)内の時空間分布図(A-B投影)

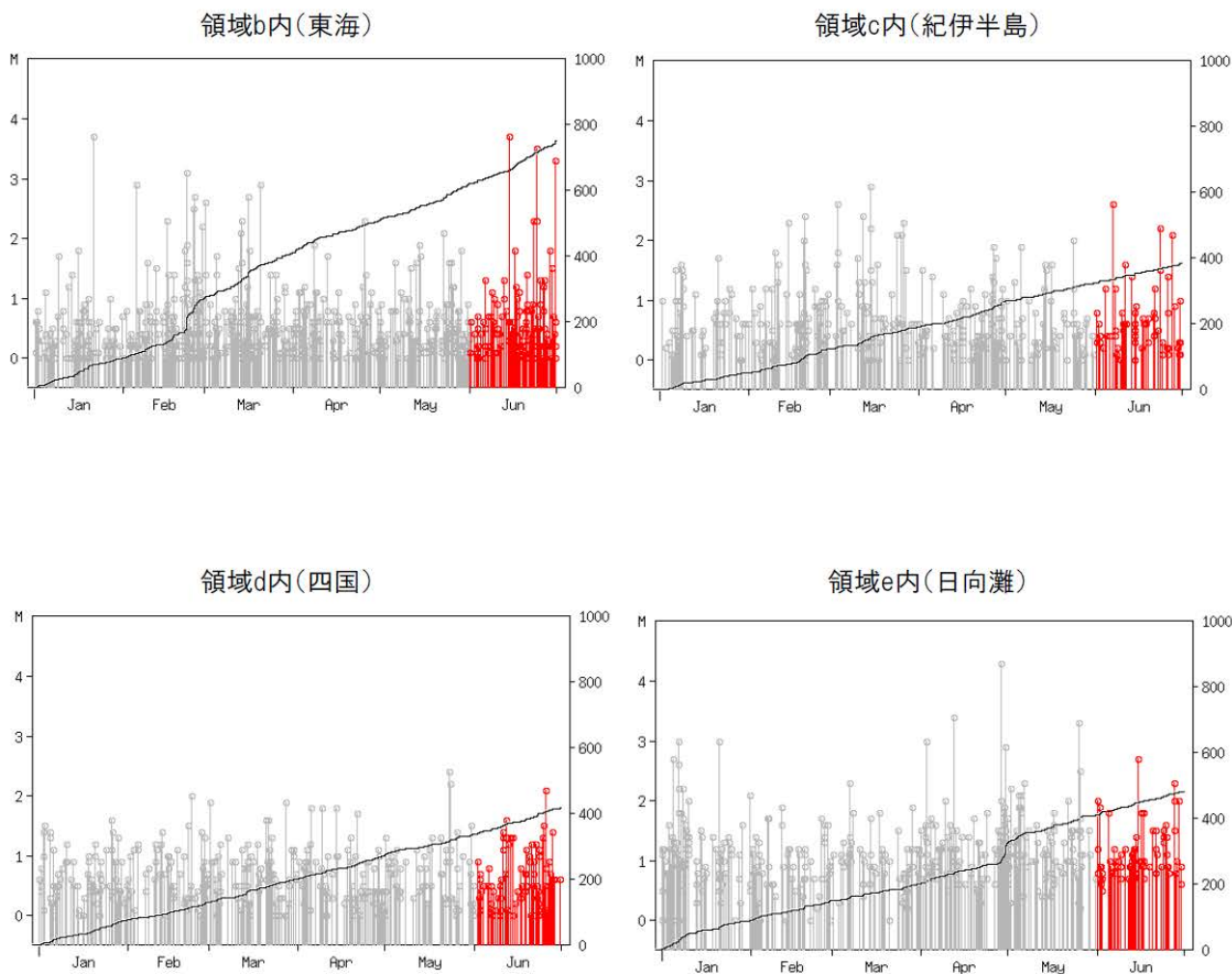


気象庁作成

プレート境界とその周辺の地震活動

フィリピン海プレート上面の深さから±6km未満の地震を表示している。
日向灘の領域f内のみ、深さ20km～30kmの地震を追加している。

震央分布図の各領域内のMT図・回数積算図

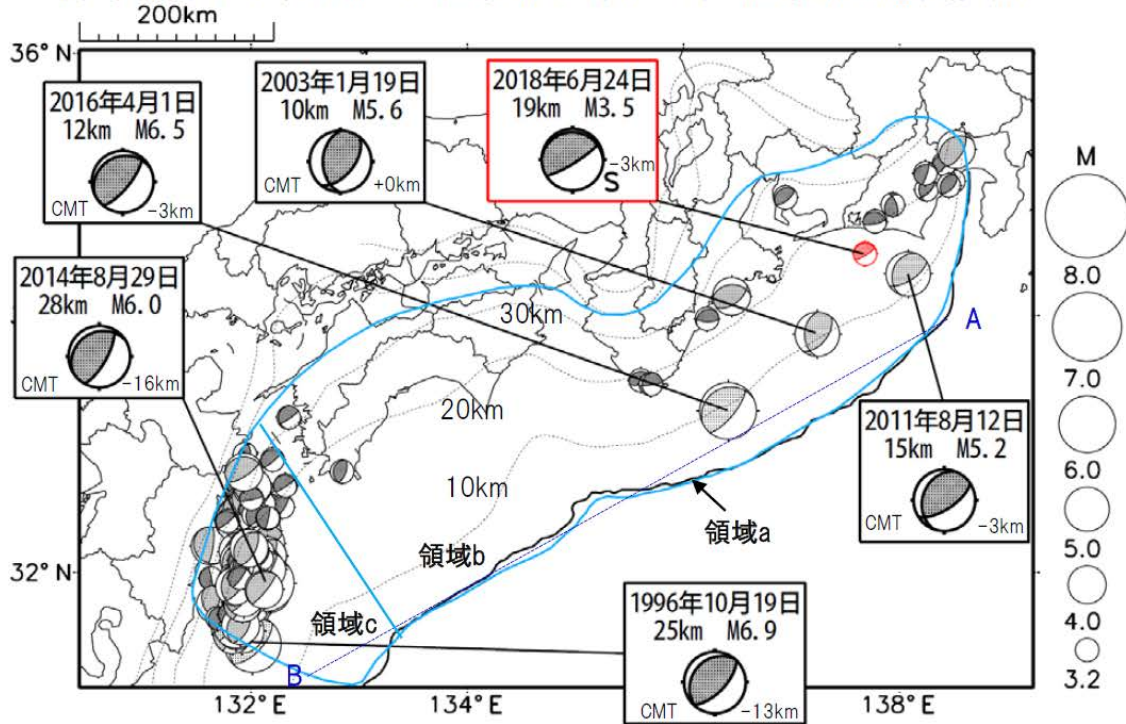


- ・フィリピン海プレート上面の深さは、Hirose et al.(2008)、Baba et al.(2002)による。震央分布図中の点線は10kmごとの等深線を示す。
- ・今期間の地震のうち、M3.2以上の地震で想定南海トラフ地震の発震機構解と類似の型の地震に吹き出しを付している。
- ・発震機構解の横に「S」の表記があるものは、精度がやや劣るものである。
- ・吹き出しの右下の数値は、フィリピン海プレート上面の深さからの差を示す。+は浅い、-は深いことを示す。
- ・回数積算図は参考として表記している。M全ての地震を表示していることから、検知能力未満の地震も表示しているため、回数積算図の傾きと実際の地震活動の活発化・静穏化とは必ずしも一致しないことがある。

気象庁作成

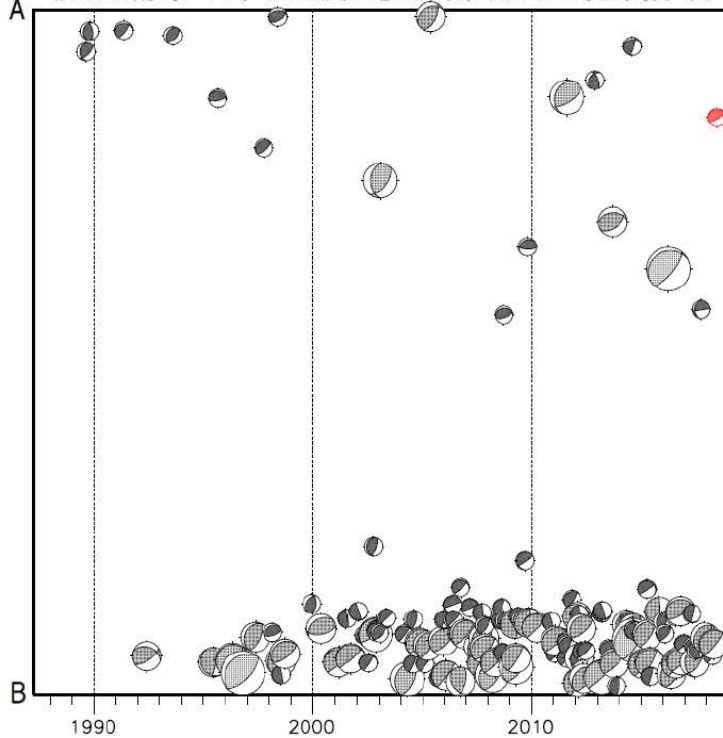
想定南海トラフ地震の発震機構解と類似の型の地震

震央分布図(1987年9月1日~2018年6月30日、M \geq 3.2、2018年6月の地震を赤く表示)



- ・フィリピン海プレート上面の深さは、Hirose et al.(2008)、Baba et al.(2002)による。震央分布図中の点線は10kmごとの等深線を示す。
- ・今期間に発生した地震(赤)、日向灘のM6.0以上、その他の地域のM5.0以上の地震に吹き出しを付けている。
- ・発震機構解の横に「S」の表記があるものは、精度がやや劣るものである。
- ・吹き出しの右下の数値は、フィリピン海プレート上面の深さからの差を示す。+は浅い、-は深いことを示す。
- ・吹き出しに「CMT」と表記した地震は、発震機構解と深さはCMT解による。Mは気象庁マグニチュードを表記している。
- ・発震機構解の解析基準は、解析当時の観測網等に応じて変遷しているため一定ではない。

A 領域a(南海トラフ巨大地震の想定震源域)内の時空間分布図



プレート境界型の地震と類似の型の発震機構解を持つ地震は以下の条件で抽出した。

【抽出条件】

- ・M3.2以上の地震
- ・領域a内(南海トラフの想定最大規模の想定震源域内)で発生した地震
- ・発震機構解が以下の条件を全て満たしたものを抽出した。

- ・P軸の傾斜角が45度以下
- ・P軸の方位角が65度以上180度以下(※)
- ・T軸の傾斜角が45度以上
- ・N軸の傾斜角が30度以下

※以外の条件は、東海地震と類似の型を抽出する条件と同様

- ・発震機構解は、CMT解と初動解の両方で検索をした。
- ・同一の地震で、CMT解と初動解の両方がある場合はCMT解を選択している。

- ・東海地方から四国地方(領域b)は、フィリピン海プレート上面の深さから±10km未満の地震のみ抽出した。日向灘(領域c)は、+10km~-20km未満の震源を抽出した。CMT解はセントロイドの深さを使用した。

気象庁作成

南海トラフ巨大地震の想定震源域とその周辺の地震活動指数

2018年6月30日

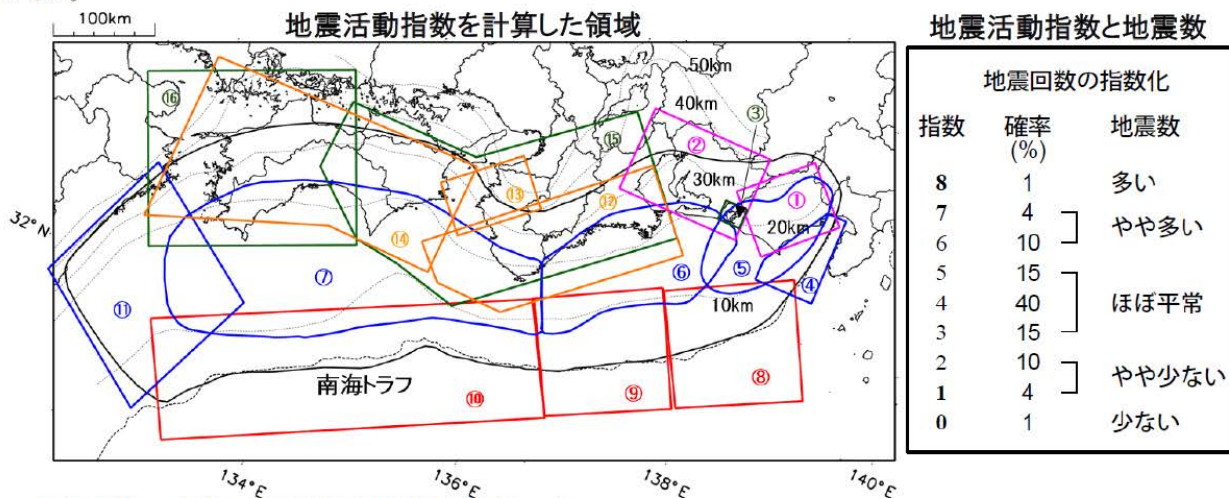
領域	①静岡県 中西部		②愛知県		③浜名湖 周辺	④駿河 湾	⑤東海	⑥東南 海	⑦南海
	地	プ	地	プ	プ	全	全	全	全
地震活動指数	6	6	7	4	2	2	6	5	2
平均回数	16.2	18.4	26.4	13.6	13.0	13.4	18.2	20.0	21.4
Mしきい値	1.1		1.1		1.1	1.4	1.5	2.0	2.0
クラスタ 除去	距離		3km		3km	10km	10km	10km	10km
	日数		7日		7日	10日	10日	10日	10日
対象期間	60日	90日	60日	30日	360日	180日	90日	360日	90日
深さ	0~ 30km	0~ 60km	0~ 30km	0~ 60km	0~ 60km	0~ 60km	0~ 60km	0~ 100km	0~ 100km

領域	南海トラフ沿い		⑪日向 灘	⑫紀伊 半島	⑬和歌 山	⑭四国	⑮紀伊半 島	⑯四国	
	⑧東側	⑩西側							
	全	全	全	地	地	地	プ	プ	
地震活動指数	4	6	3	4	2	2	6	4	
平均回数	11.5	15.1	20.6	23.1	42.4	29.9	27.5	28.0	
Mしきい値	2.5	2.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	
クラスタ 除去	距離		10km	10km	10km	3km	3km	3km	3km
	日数		10日	10日	10日	7日	7日	7日	7日
対象期間	720日	360日	60日	120日	60日	90日	30日	30日	
深さ	0~ 100km	0~ 100km	0~ 100km	0~ 20km	0~ 20km	0~ 20km	20~ 100km	20~ 100km	

* 基準期間は、全領域1997年10月1日～2018年6月30日

* 領域欄の「地」は地殻内、「プ」はフィリピン海プレート内で発生した地震であることを示す。ただし、震源の深さから便宜的に分類しただけであり、厳密に分離できていない場合もある。「全」は浅い地震から深い地震まで全ての深さの地震を含む。

* ⑨の領域(三重県南東沖)は、2004年9月5日以降の地震活動の影響で、地震活動指数を正確に計算できないため、掲載していない。



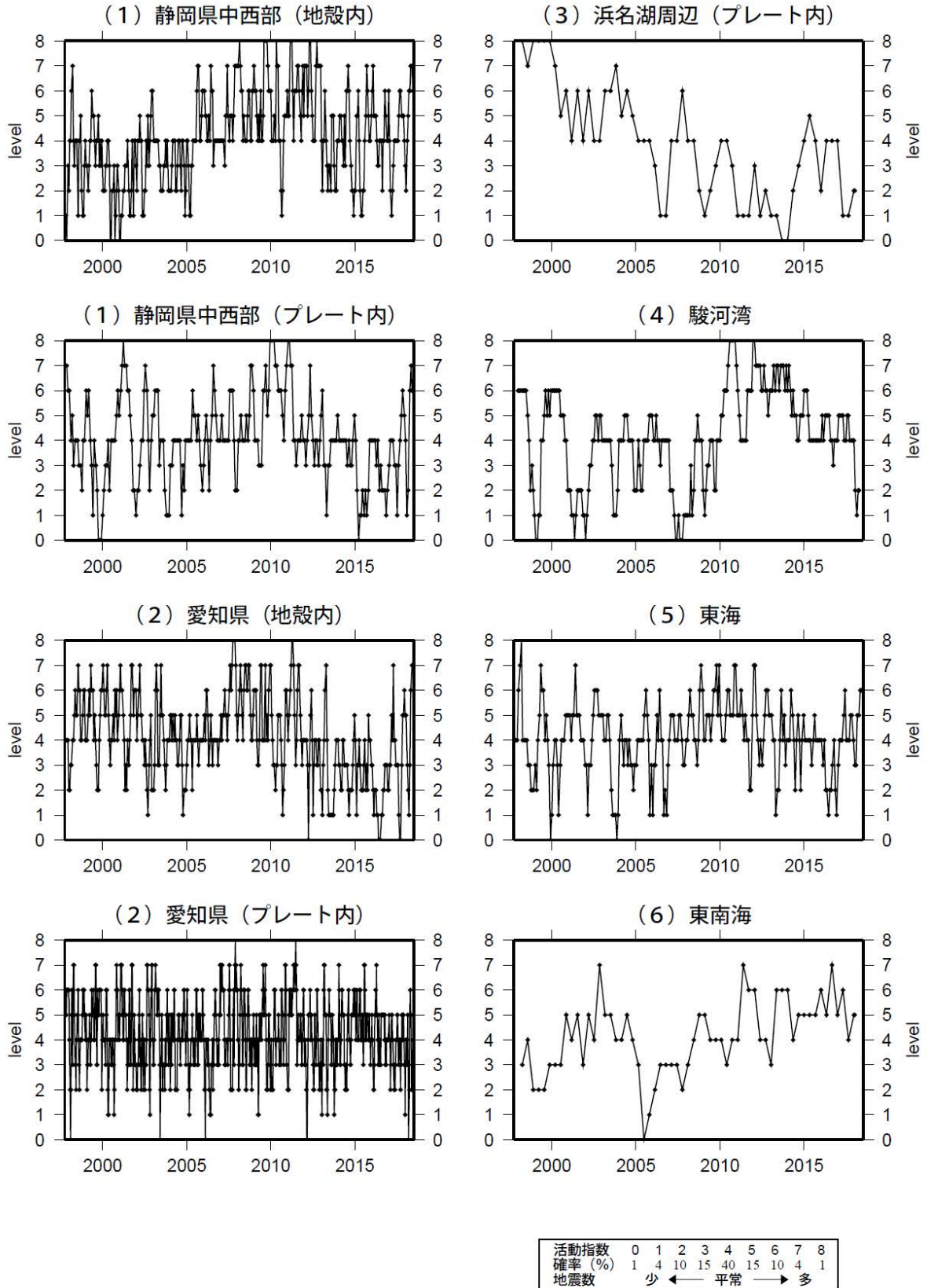
* 黒色実線は、南海トラフ巨大地震の想定震源域を示す。

* Hirose et al.(2008)、Baba et al.(2002)によるプレート境界の等深線を破線で示す。

気象庁作成

地震活動指数一覧

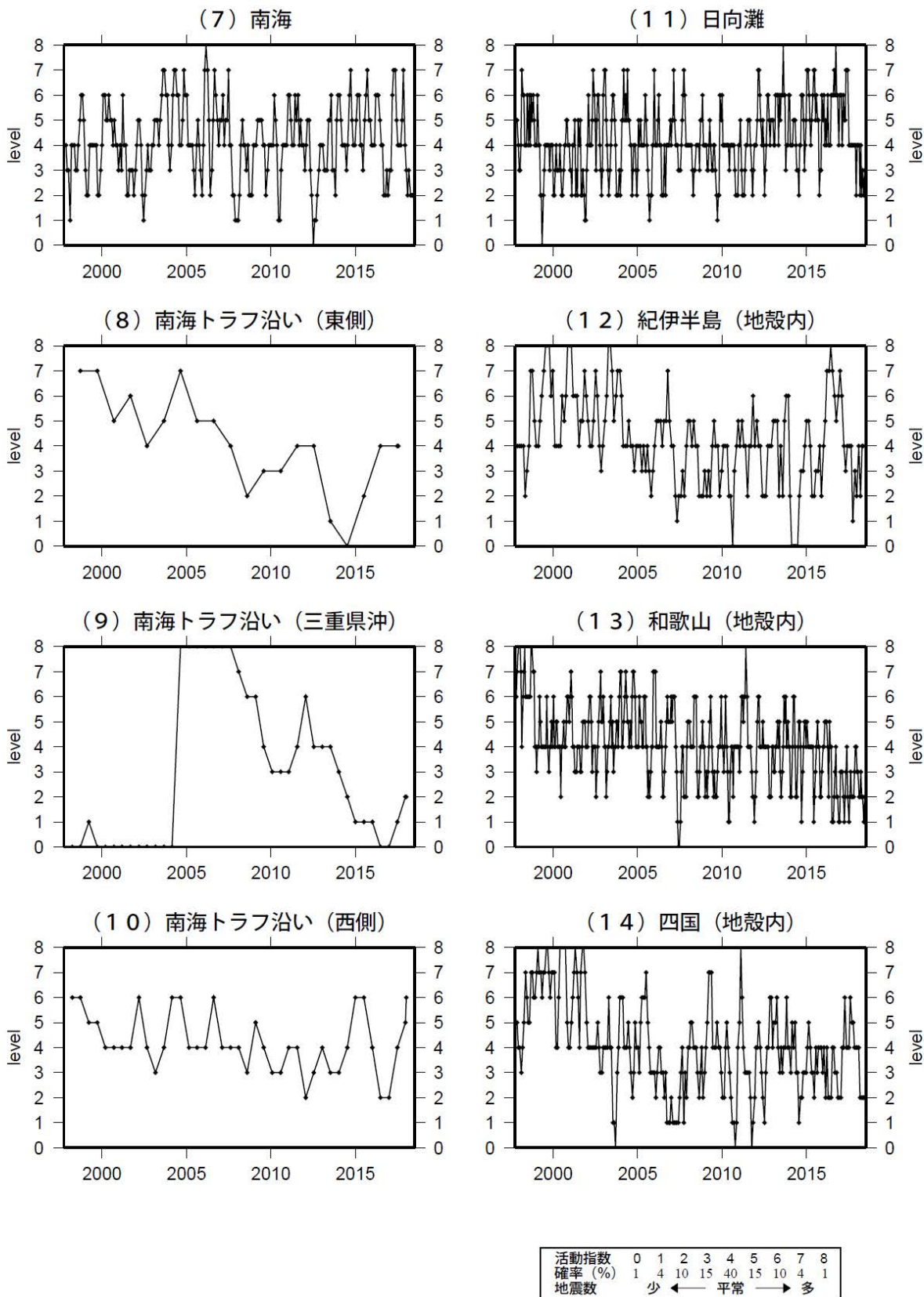
2018年06月30日



気象庁作成

地震活動指数一覧

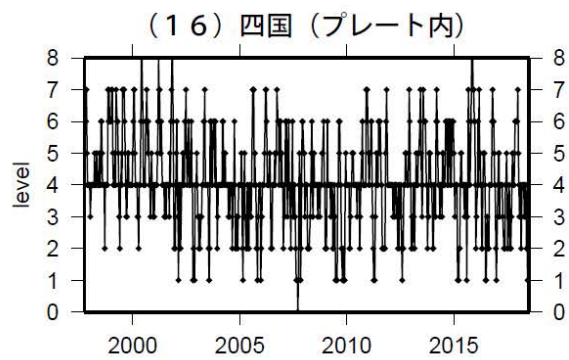
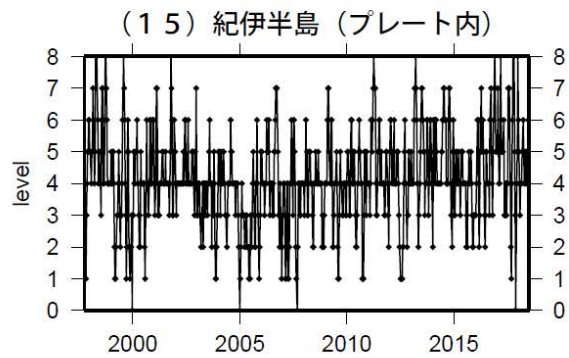
2018年06月30日



気象庁作成

地震活動指数一覧

2018年06月30日



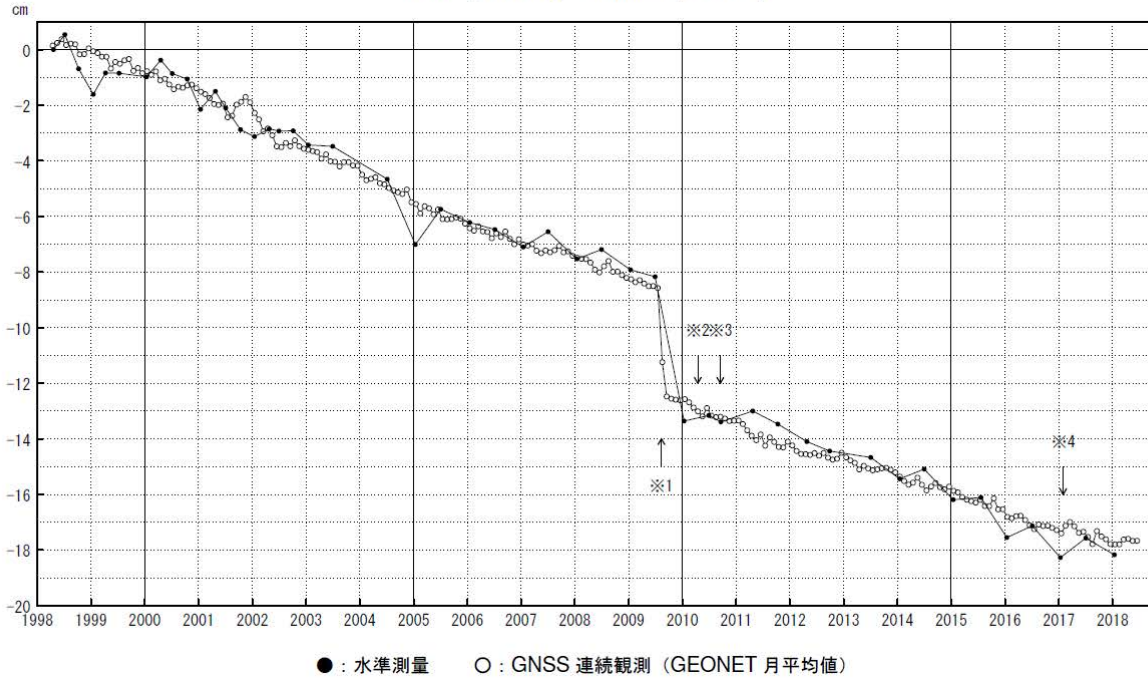
活動指数	0	1	2	3	4	5	6	7	8
確率 (%)	1	4	10	15	40	15	10	4	1
地震数	少	← 平常		→		多			

気象庁作成

御前崎 電子基準点の上下変動
水準測量と GNSS 連続観測

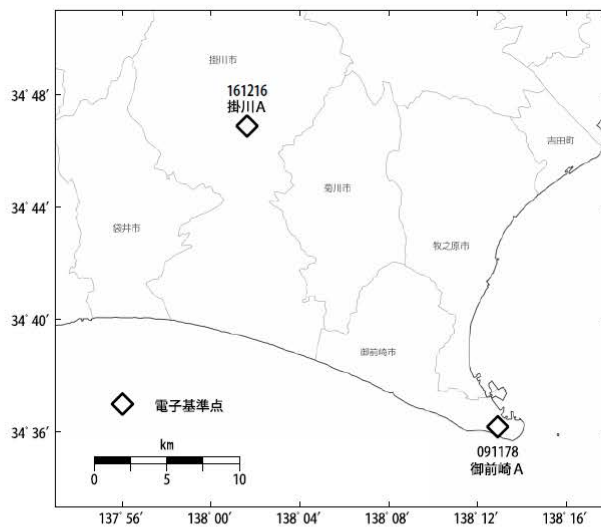
掛川に対して、御前崎が沈降する長期的な傾向が続いている。

掛川 A (161216) - 御前崎 A (091178)



・ 最新のプロット点は 06/01～06/16 の平均。

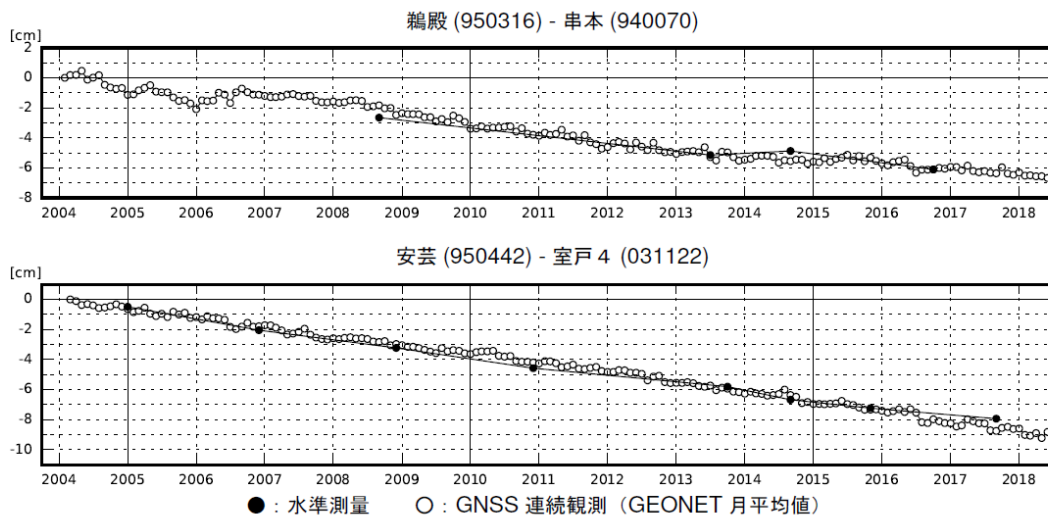
- ※1 電子基準点「御前崎」は2009年8月11日の駿河湾の地震(M6.5)に伴い、地表付近の局所的な変動の影響を受けた。
- ※2 2010年4月以降は、電子基準点「御前崎」をより地盤の安定している場所に移転し、電子基準点「御前崎A」とした。上記グラフは電子基準点「御前崎」と電子基準点「御前崎A」のデータを接続して表示している。
- ※3 水準測量の結果は移転後初めて変動量が計算できる2010年9月から表示している。
- ※4 2017年1月30日以降は、電子基準点「掛川」は移転し、電子基準点「掛川A」とした。上記グラフは電子基準点「掛川」と電子基準点「掛川A」のデータを接続して表示している。



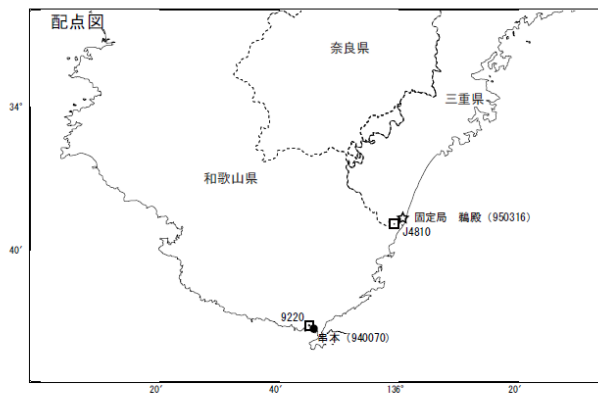
国土地理院

紀伊半島及び室戸岬周辺 電子基準点の上下変動

潮岬周辺及び室戸岬周辺の長期的な沈降傾向が続いている。

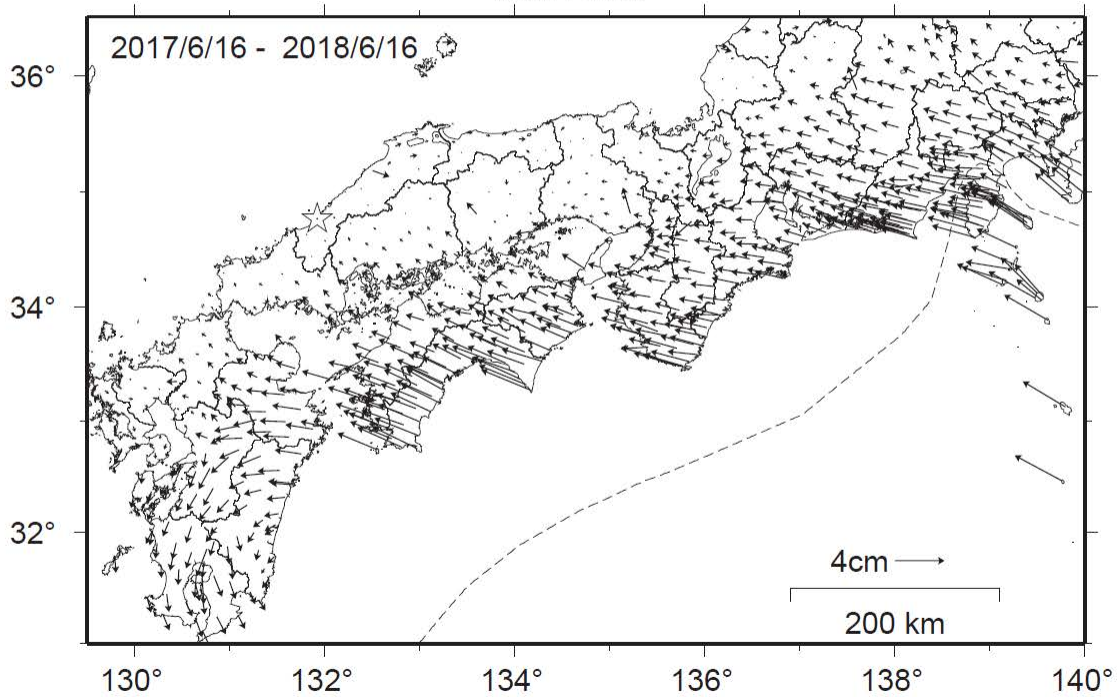


- ・ 最新のプロット点は6/1～6/16の平均。
- ・ 水準測量による結果については、最寄りの一等水準点の結果を表示している。

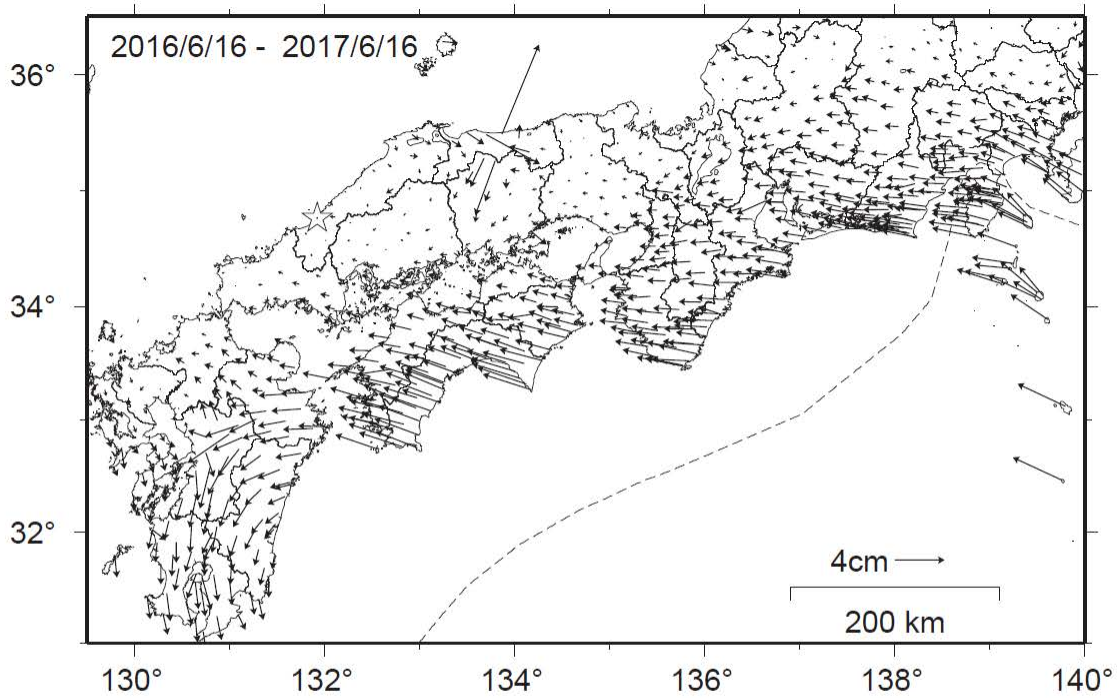


南海トラフ沿いの水平地殻変動【固定局：三隅】

【最近1年間】



【1年前の1年間】



国土地理院